



やるきほんききききき 木佐木

神奈川県議員
日本共産党

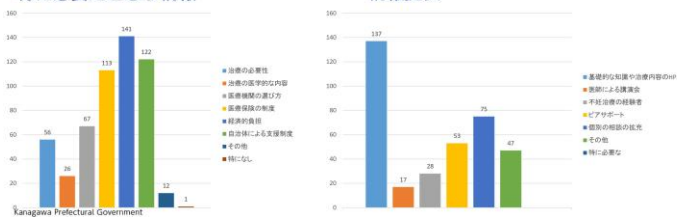
2023.12.13
木佐木たまたま news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021
Profile
▶1984年山梨県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

神奈川県の不妊治療支援前進へ！

アンケート結果概要

不妊治療を行う際等に必要な情報としては、「**経済的負担**」が最も多く、次いで「**自治体による支援制度**」、「**医療保険の制度**」となっている。県に特に行ってほしい情報提供としては、「**基礎的な知識や治療内容のHP**」が最も多く、次いで「**個別の相談の拡充**」、「**ピアサポートの場の設置**」となっている。

4 不妊治療を行う（考える際）に、特に必要だと思う情報 5 県（自治体）に特に行ってほしい情報提供



県の行った不妊治療当事者等へのアンケート結果より

当事者アンケートの結果公表から見えること

9月の本会議で知事に対して、不妊治療への経済的支援を求める質問で「調査結果をしっかりと分析しながら、どのような支援が有効か、検討していきます。」との答弁があったのですが、その調査結果が先ごろ取りまとめられ公表されました。

早速、所属している厚生常任委員会の質疑で取り上げ、県の受け止めや今後の取り組みへの影響を聞きました。

寄せられた声には、不妊治療に取り組むにあたって様々な情報があふれている中で、望む治療や近隣医療機関の情報が県民に分かりやすく伝えてほしいといったものや治療費が非常に負担に感じているというリアルな実態があり支援の必要性が改めて浮き彫りになりました。

切実な声が県を動かす！

こうした声を受けて県としてどう対応していくのかという問いに対して担当課長からは「施策

に生かしていくために行ったアンケートの結果なのでしっかりと受け止めて検討していきたい」との答弁がありました。

行政用語で「情報収集に努める」や「国の動向を注視する」「研究する」などありますが、その中でも今回の「アンケート結果を受け止め検討していく」というのは大きな進展を期待させるものだと感じています。不妊治療への経済的支援については、可能な限り早く多くの人利用できるよう、年明けの予算審議の中でも強く訴えていきたいと思ひます。

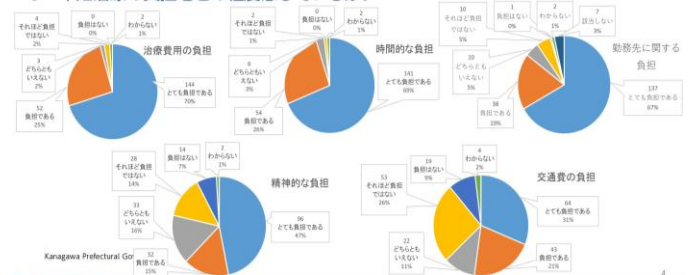
これからも当事者として

4月の選挙では不妊治療に取り組む当事者として、県の経済的支援を公約に掲げて活動しましたが、実現に向けてもうひと踏ん張りです。

治療の最終段階である体外受精の保険適用は最大で6回の回数制限があり、既に超過して人工授精にステップダウンして治療に取り組んでいる夫婦もいます。回数制限の見直しや、自費での治療に取り組んでいる人にも使える経済的支援の制度にしていくなど、まだまだ課題に取り組みます！

「**とても負担である**」「**負担である**」を併せた回答数では、「**治療費用の負担**」が最も多く、次いで「**時間的な負担**」、「**勤務先に関する負担**」となっている。

6 不妊治療の負担をどの程度感じているか。



アンケート結果はこちらからご覧いただけます⇒

